



変化することの大切さ

校長 羽田野庸史

1学期も7月を残すだけとなりました。今年度は、新校舎での6年生の生活が始まりました。給食の時間には、毎日、本校舎の2階まで食べに行かなければなりません、さすが6年生は、最初からそのことに適応していました。

先日、あるTV番組で冒頭に次のようなダーウィンの言葉が流されました。

最も強い者が生き残るのではなく、
最も賢い者が生き残るのでもない。

唯一生き残るのは、変化できる者である。

ダーウィンは、進化論を唱えた人物ですから、この言葉は的を射てますが、このことは、現代社会にも通じる大事な言葉だと思いました。

先のTV番組は、プロ野球読売ジャイアンツの菅野智之投手が今年のWBCに出場するにあたって、日本より固いマウンドにどのように対応したかについての特集でした。菅野投手は、投球するときに一足分遠くに足を踏み出すことで対応し、それが今シーズンの活躍（この時、菅野投手はセ・リーグで28年ぶりの3連続完封を達成）にも結び付いていることを取り上げていました。

プロ野球では、球速の速かった投手がいつまでも自分のイメージに固執し、プロ野球界から姿を消していく一方で、同じ速球投手でも上手に変化球投手にモデルチェンジし、プロ野球史上に名を残した選手がいます。企業では、かつての企業を代表する商品にいつまでもこだわり、結果的に売り上げを落とし、縮小化してしまった企業があります。私たち教員の世界では、授業が上手だと言われる先生は、その時代に育成すべき力や児童の実態を踏まえ、柔軟に授業構成を変えています。

どんな世界でも、これからの社会を生き抜いていくためには、この「変化できること」が必要不可欠です。そして、変化するためには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けなければなりません。

実は、このような力は、これまで学校教育が育成を目指してきた「生きる力」に他なりません。しかし、時代の変化とともに、今、この「生きる力」を改めてとらえ直し、その質を今まで以上に高めていくことができるように指導していくことが我々に求められています。

7月 行事予定

日	曜	行事等	放課後遊び
1	土	安全指導 お話会(1校時) 日本文化の時間	なし
2	日		
3	月	委員会活動(56年)	なし
4	火	保護者会(456年) 社会科見学(3年)	なし
5	水	4時間授業	なし
6	木	都学力調査(5年) 保護者会(123年)	なし
7	金		2~6
8	土		
9	日		
10	月	クラブ活動	4~6
11	火	児童集会 色覚検査(4年希望者) 自転車教室(3年)	3~6
12	水		なし
13	木	音楽朝会 避難訓練(Jアラート)	4~6
14	金		2~6
15	土		
16	日		
17	月	海の日	
18	火		3~6
19	水		なし
20	木	終業式 大掃除 給食終 4時間授業	なし
21	金	夏季休業日始 夏季水泳① 補習① ラジオ体操①	
22	土	ラジオ体操②	
23	日		
24	月	夏季水泳② 補習② ラジオ体操③	
25	火	夏季水泳③ 補習③ ラジオ体操④	
26	水	夏季水泳④ ラジオ体操⑤ 夏季学園事前検診(13)	
27	木	夏季学園(5年)① 家庭訪問	
28	金	夏季学園(5年)② 家庭訪問	
29	土	夏季学園(5年)③	
30	日		
31	月	夏季水泳⑤ 家庭訪問	

7月の生活目標

生活指導主幹 三根 博喜

整理整頓をしよう。

日頃から使っているこの「整理・整頓」という2つの言葉には異なる意味があります。「整理」の「理(ことわり)」には「物事の筋道」という意味があり、そこから「整理」はいるものといらないものに分け不要なものを取り除くことを意味します。「整頓」の「頓」は「落ち着く」の意味から、必要なものをいつでも誰でも取り出せるよう、秩序だて配置することを意味します。整理整頓の行動の中から、筋道を立て、秩序だてていくことを身に付けることができます。